

1年生活科 「秋となかよし ～2年生を秋のテーマパークに招待しよう～」

学習指導者 増田 洸一

自らの学びを正確に捉える力を身に付けさせるために、振り返りでは、「自分の成長を確かめるためには、前の時間と比べながら、ペアに遊びを試してもらおう」という方法を習得させていきました。その際、「2年生が楽しめる」「秋のものを使っている」という個人課題をクリアしているかどうかをペアに確かめてもらいながら交流することで、自己の変容や成長を捉えやすくしました。

秋の遊びをもっともっともっとレベルアップしよう

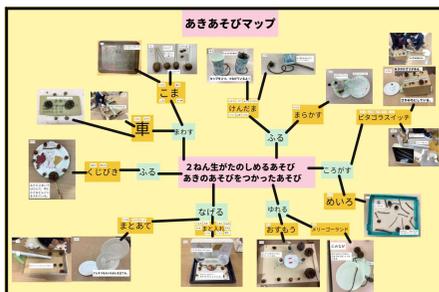
【見通し】



単元計画表を基に、ゴールに向けて秋の遊びをレベルアップしてきていることを確認しました。「2年生が楽しめる」「秋のものを使っている」のどちらかから個人課題を選び、ペアに今日工夫したいことを伝え合う場を設定することで、活動の見通しをもたせました。

【行動】

個人課題に沿って、必要な材料や道具を子供が自由に選んで使えるようにすることで、自分の遊びを工夫しやすくしました。活動中に見付けた新しい遊びの工夫があれば、教師が「秋遊びマップ」に付け足していく、子供たちは各班の端末で学習支援アプリを通して、それらを見られるようにしたことで、他の友達の工夫を参考にしながら、遊びをレベルアップできるように粘り強く取り組みました。



【振り返り】

チェックタイム 15 ぶん

① まえとくらべながら、あそびをためしてもらい、クリアできたかたしかめてもらう

② ここにこがおをOでかこむ。

③ つぎにしたいことを見つける。

前時の自分の遊びと比べながら、ペアに遊びを試してもらい、めあてをクリアできているかどうかを確かめる時間を設定しました。いつも同じペアと交流することで、本時までの変容をお互いに捉えやすくしました。本時の自分の取り組みと成果についてチェックシートに10段階で丸を付け、丸をした理由を全体で共有しました。自分の成長を感じたり、自分にはなかった視点を見付けたりしている姿があり、自らの学びを正確に捉える方法の良さを実感できていました。



成果と課題

○見通し場面では、名札で選んだ課題を可視化したり、工夫したいことを伝える場を設けたりしたことで、本時の活動が明確になった。振り返り場面でペアに遊びを試してもらい、成長を認めてもらうことで、自己の変容を実感できていた。
 ▲秋遊びマップは、次工夫したいことを考えている見通しや振り返り場面で共有した方が、より必要感をもって子供が活用できたのではないかと。振り返りでは、友達に試してもらい、助言をもらう意味や良さを共通理解しておく必要があった。